

氏名	石井裕朗
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5109 号
学位授与の日付	平成 27 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Risk Factors for Systemic Air Embolism as a Complication of Percutaneous CT-guided Lung Biopsy: Multicenter Case-control Study (CTガイド下肺生検における空気塞栓の多施設共同リスク解析)
--------	--

論文審査委員	教授 三好新一郎 教授 氏家良人 准教授 佐藤健治
--------	---------------------------

### 学位論文内容の要旨

本研究の目的は、経皮的 CT ガイド下肺生検に伴う合併症である空気塞栓のリスク解析を行うことである。本研究は、2000 年 4 月? 2011 年 4 月までの 11 年間に 12 施設で施行された CT ガイド下肺生検 2,216 例を対象として行った後向き多施設共同ケースコントロール研究である。さまざまなリスク因子に対し統計学的処理を行い、リスク解析を行った。結果は、2,216 例中 10 例の空気塞栓が認められ、発生率は 0.45%であった。リスク因子に対し単変量解析を行った結果は、下葉病変 (P = 0.025) と肺出血 (P = 0.019) が有意なリスク因子となった。多変量解析の結果は、より太い生検針を用いること (P = 0.014) が有意なリスク因子となった。経皮的 CT ガイド下肺生検において、「太い生検針を用いる」、「肺出血」、「下葉病変」は空気塞栓のリスク因子になると考えられる。本研究の結果が空気塞栓のリスク低減に繋がることが期待される。

### 論文審査結果の要旨

本研究は経皮的 CT ガイド下肺生検に伴う合併症である空気塞栓のリスク解析を行うことを目的にして、2004 年 4 月から 2011 年 4 月までの 11 年間に 12 施設で施行された CT ガイド下肺生検 2,216 例を対象として行われた後向き多施設共同ケースコントロール研究である。2,216 例中 10 例に空気塞栓が認められ、発生率は 0.45%であった。リスク因子に対して単変量解析を行った結果、下葉病変 (p=0.025) と肺出血 (p=0.019) が有意なリスク因子となった。多変量解析の結果ではより太い生検針を用いること (p=0.014) が有意なリスク因子となった。このように CT ガイド下肺生検において空気塞栓のリスク因子を明らかにしたことは重要な知見であり、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。